

第13節

शौनक उवाच

इत्यभिव्याहृतं राजा निशम्य भरतर्षभः ।

किमन्यत्पृष्टवान् भूयो वैयासकिमृषिं कविम् ॥ १३ ॥

śaunaka uvāca

ity abhivyāhṛtam rājā

niśamya bharatarṣabhaḥ

kim anyat pṛṣṭavān bhūyo

vaiyāsakim ṛṣim kavim

śaunakaḥ uvāca—シャウナカが言った; *iti*—そのように; *abhivyāhṛtam*—語られたことすべて; *rājā*—王; *niśamya*—聞くことで; *bharata-ṛṣabhaḥ*—マハーラージャ・パリークシット; *kim*—何; *anyat*—さらに; *pṛṣṭavān*—彼に尋ねたか; *bhūyaḥ*—再び; *vaiyāsakim*—ヴァーサデーヴァの子に; *ṛṣim*—造詣が深い者; *kavim*—詩的。

シャウナカが言った。「ヴァーサデーヴァの子、シュリーラ・シュカデーヴァ・ゴースヴァーミーはひじょうに博識な聖者であり、ものごとを詩的に説明することができる人物です。そのような方の話を聞いたあと、マハーラージャ・パリークシットは次にどう尋ねたのでしょうか」

要旨解説

主の純粋な献愛者は、ごく自然に神聖な気質を培（つちか）うのですが、次のような質が特筆できます。親切で、平安で、誠実で、心おだやかで、過ちをおかさず、寛大で、温厚で、清潔で、所有心がなく、だれの幸せも望み、満足し、クリシュナに身をゆだね、なにかを渴望することなく、純真で、意志が固く、自己を抑えることができ、バランスのとれた食事をし、分別があり、行儀正しく、高慢でなく、威厳があり、同情心あふれ、友好的で、**詩的で**、熟達し、そして物静かです。クリシュナダーサ・カヴィラージャが自著『チャイタンニヤ・チャリタームリタ』で説明しているように、献愛者に見られるこの26の特質のなかで、「詩的」という質がこの節でシュカデーヴァ・ゴースヴァーミーに関連して述べられています。シュカデーヴァ・ゴースヴァーミーが詠（うた）いあげた『シュリーマド・バーガヴァタム』は、もっとも気高い詩的な作品と言えます。自己を悟った聖者なのです

から。さらに、シュカデーヴァ・ゴースヴァーミーは聖者たちのなかでも偉大な詩人である、ということも如実に物語っています。